

## 第 21 回汚職防止刑事司法支援研修に参加して

警察庁 杉田 光寛

### 1 はじめに

私は、平成 30 年 10 月 11 日から約 1 か月間、国連アジア極東犯罪防止研修所（「UNAFEI（ユナフェイ）又は略称「アジ研」）で開催された「第 21 回汚職防止刑事司法支援研修」に参加しました。

本研修のテーマは、「汚職撲滅のための効果的な刑事司法の実務，国際協力及び市民社会との連携」であり，日本を含む 27 か国から合計 35 名（うち，日本人研修参加者は 7 名）が参加して実施されました。

各参加者は，警察，検察，裁判所，汚職防止委員会等の刑事司法関係機関の実務家の方々であり，これらの参加者がそれぞれの知識と経験を持ち寄り，国籍や職種，言葉の壁を越えて率直に意見を交わし，汚職犯罪対策上の課題に対する効果的な刑事司法制度の在り方や，これを適正に運営するための具体的な方策について検討した貴重な機会でした。

アジ研に入所するまでは，決して得意とは言えない英語で行われる研修や長期にわたる海外参加者との一つ屋根の下での生活を思い不安を募らせていましたが，いざ研修が始まってみると，全ての研修に同時通訳があるので理解に困ることはなく，また，海外参加者の方々は素晴らしい人ばかりで，終わってみれば，たいへん有意義な研修に参加させていただいたというのが正直な感想です。

この度，本研修を振り返る機会をいただきましたので，研修の内容と海外参加者との交流に分けて，私の経験や感想を述べたいと思います。

### 2 研修内容について

本研修では，アジ研の所長以下経験豊富な教官，国内の刑事司法関係機関の実務家の講義により，日本における国際協力や刑事司法制度，国連腐敗防止条約（UNCAC

C) について学び、さらに、海外参加者による個人発表と海外客員専門家の講義から各国における汚職犯罪の現状や刑事司法制度、汚職防止のための効果的な取組等について知ることができました。また、研修の終盤に実施されるグループワークでは、それまでに研修で学んだ知識と各国参加者の経験を交えて、活発な議論が行われたことで、研修内容についてさらに理解を深めることができました。

これらの研修を通して、海外の多くの国において汚職が社会の健全な発展を妨げる大きな要因となっており、汚職と対決し、これを防止するために、各国で懸命な取組が行われていることを初めて知りました。

特に、ある海外客員専門家の国における、汚職犯罪の摘発に加え、国民に対する教育、テレビドラマを使った広報啓発活動など効果的な施策を積極的に推進することで汚職のまん延した社会を見事に脱却し、国民の平和で豊かな暮らしを実現した事例の紹介は、大変興味深いものでした。

しかし、海外参加者の国の中には、汚職が社会に深く根付いてしまい、その摘発、防止が非常に困難になっている国も少なくなく、これらの国々が汚職を根絶して国民の豊かな暮らしを実現するためには、汚職と対決する強い決意と国際協力が必要不可欠なのだと実感しました。

### 3 海外参加者との交流について

海外参加者とは、研修中は当然のこと、研修後の余暇や週末も含め、本当の意味で寝食を共にする生活を送りました。時には、家族へのお土産を買うためにショッピングに付き合い店員さんとの通訳をしたり、時には、週末に遊園地に行き久しぶりにジェットコースターに乗って一緒に絶叫したりしました。またある時には、ムスリムの海外参加者と出かけていた際、礼拝をする場所やハラールフードを提供するレストランを探して歩き回ったこともありました。

このように、本研修に参加しなければ決してできなかったであろう貴重な経験をし、楽しい思い出をつくることができました。

先に述べたように、我々参加者は、国籍や職務、年齢等も異なりましたが、互いに尊重し合い、思いやりを持って接することで、もう一つの家族のような親密な関係を築くことができました。

実際に、海外参加者の一人にホームシックにならないかと尋ねたことがありましたが、その方は「私にはここ（UNAFEI）の家族がいるから全く寂しくないよ。」とおっしゃっていました。

こうして研修が終わった今も、毎日のようにSNSを通じてお互いの近況を報告し合っております。

今後もこの関係を大切にしていきたいと思っています。

#### 4 おわりに

最後になりますが、本研修では参加者同士が、言語や文化の違いを超え、お互いをもう一つの家族と感じられるほどの親密な関係を築くことができたので、研修最終日、我々日本人参加者よりも一足先にUNAFEIを旅立つ海外参加者を見送る時には、涙をこらえきれませんでした。

この何物にも代えがたい友情は、今後も末永く続いていくものと思います。

そして、このような関係を築くことができたのは、研修当初から陰になり日向になり、我々研修生のためにきめ細やかなお心遣いをしてくださったUNAFEIの教官の皆様や、快適な生活のサポートをしてくださった食堂、清掃のスタッフの皆様のおかげにほかなりません。

この場をお借りして、全ての方々に敬意と感謝を申し上げるとともに、今後のますますのご発展を祈念いたします。

ありがとうございました。